

令和 7 年度東北大学空手道部 O B ・ O G 会総会 議事録

1. 日時：令和 7 年 7 月 26 日（土）15：00～17：00

2. 場所：東天紅上野本店（東京都台東区池之端 1-4-1）

3. 出席者（敬略略）

S46 笠井、S46 木村、S46 山内、S51 宇野、S51 真野、S52 泉、S52 堀、S53 大石、S54 岡庭、
S54 佐藤、S56 松岡、S56 小林、S58 古谷野、S59 富沢、

開催に先立ち議長の選出が行われ、S56 小林が議長を務めることが承認された。

4. 審議事項

・議案 1、2. 令和 6 年度決算（案）、監査報告

会費の大口納入・一括納入等で、次期繰越金が予算比 582,135 円増加することが説明された。また、令和 7 年 6 月 1 日に実施された監査報告結果が説明され、異議なく承認された

学生から令和 6 年度空手道部決算報告があったことが説明された。支出は 818,164 円であり、このうち登録費・大会参加費が 306,000 円、備品購入費が 132,364 円、遠征補助費が 82,800 円で、合計 521,164 円であることが報告された。収入については報告がなかったが、OB・OG 会からの学生補助金（500,000 円）以外に、大学側からの補助金、および繰越金があるであろうことが報告された。次回は収入についての報告も追加することが望ましいことを学生指導部から伝えてもらうこととした。

・議案 3. 令和 7 年度予算（案）

令和 7 年度も大口会費納入（1,000,000 円）があったこと、令和 6 年度に国際交流に関する寄付金収入があり、令和 7 年度はこれを学生補助金に含め、学生補助金を令和 6 度比 300,000 円増の 800,000 円とすること、その他の費目は令和 6 年度とほぼ同額であることが説明され、異議なく承認された。

・議案 4. 令和 7 年度組織図（案）

不在であった HP 管理者に北日本支部副支部長の H19 中村様が就任されること、その他は変更がないことが説明され、異議なく承認された。

5. 報告事項

・報告事項 1. 令和 6 年度活動報告

空手道部ニュースを 14 回発信、幹部会を WEB で 2 回、対面で 1 回開催したことが報告された。対面での 1 回は尚武 70 周年記念号発行についての打合せであり、平成 20 年代卒の若手 2 名の参加があったことが報告された。

・報告事項 2. 尚武 70 周年記念号発行の件

メールアドレスが判明している 145 名の会員に、空手道部ニュースで寄稿の依頼をしたことが報告された。また、メールアドレスは分からぬが、住所の登録がある会員約 80 名に、郵送で寄稿の依頼をしたことが報告された。

・報告事項 3. 現役の活動状況

泉監督、佐藤助監督から現役の状況が報告された。7月13日に北海道大学で開催された7大学戦では、戦績は振るわなかったものの、若手のOB・OGが遠方にもかかわらず大勢駆けつけてくれ、応援は非常に盛り上がっていたことが報告された。

・報告事項4. 国際交流の件

S51 宇野様から、アイルランド交流（国際交流）の現状と今後の展開について報告があった。アイルランドでの国際交流は今年4年目を迎え、9月にはOB2人に加え初めて学生の参加を予定している事、学生が主体的に相手校（アイルランド国立大学ダブリン校）と交渉し、合同練習も予定している事が報告された。

また、2校間の交流では個人の繋がりによる側面が強く、継続が難しいことも同時に報告された。一方で、全日本空手道連盟が取り組みを始めた「国際空手ミーティング」への参加を検討してはどうかと考えており、ケンブリッジ大学での次回開催が決まれば来年3月に宇野様が東北大学空手道部OBとして参加し、『世界の学生との交流』を軸に東北大学空手道部の活性化が期待できるのであれば、継続した参加の検討も提言したいとのことだった。

以下、宇野様報告資料からの抜粋（報告の詳細は添付資料参照）

東北大学空手道部としての国際交流の目的と課題

（OB・OG会をOB会と簡略表現しています）

【目的】

- ① 現役部員・OB・OG会の活性化
 - ② 国際交流にOB・現役ともに参加することでOBと学生の交流を深める
- ※現在 竹田前主将・沼田現主将・佐藤副監督・宇野で毎月ZOOMミーティングを実施
- ③ 現役部員の国際交流の体験を就職活動およびその後の社会人生活に役立てる
 - ④ 若手OBのOB会への参加促進
 - ⑤ 東北大学への留学生の空手道部への勧誘

【課題】

- ① 国際交流の継続
- ② 費用の捻出。費用対効果の評価

国際空手ミーティングが軌道に乗り、これに参加する方向ならば継続性・費用面の課題は克服しやすくなると思います。

【OB会への提案】

- ① 国際交流準備委員会（現役・OB会合同）

現役学生・若手OB・40代・50代・60代OB・OGと世代も超えた国際交流準備委員会を作ることにより、国際交流に限らずOB会の活性化を図る。

- ② 費用面については国際交流準備委員会を中心に東北大学空手道部OB会内で寄付金を募るとともに、東北大学本部からの補助金獲得の可能性を探る。

※今年のアイルランド訪問は国際交流の一つのきっかけとして、さらに広い視野に立った国際交流について今回の総会で議論して頂ければと思います。

その後、以下の質疑があった

Q: 「国際空手ミーティング」とは何か、そういう組織があるのか？

A: オックスフォード大学が主体となってランキング上位の大学 20 校がオックスフォード大学で合宿したのが最初。日本の大学の参加はなかったが、空手道連盟の長田理事長、学連の渡邊会長が行って指導した。日本の思いはオリンピックでの復活、国際空手ミーティングの目的はビジネスコネクション。それぞれの思惑が合致して進捗している。

Q: 他のスポーツでもやっているのか？

A: それは不明、日本空手道連盟としては将来世界で活躍している人と関係を築いておきたいとのこと。

Q: 国際空手ミーティングは組織か？

A: まだ組織にはなっていない。

Q: 東北大学がそこの参加する理由は何か？

A: 今はまだ日本の大学はどこも参加していないので、東北大学が手を挙げて他の大学を引き込む。2 校間で交流をするよりも、継続性のある空手の国際イベントに参加して、世界各国の学生と関係を持つ機会を得られたらと思う。そこでは学生だけが練習するのではなく、OB も一緒に練習している。東北大学からも OB の参加も可能であり、2 年続ければ、3 年・4 年と続くと思う。東北大学の現状として、OB の高齢化、現役部員数の減少があるが、何とか改善させたい。何ができるか、現役と OB が連動しあえる手段としてこれを考えた。今、国際交流等の打合せで、OB 2 名、現役 2 名で Zoom 会議をしているが、学生の考え方は 50 年前とは全然違う。相互理解がないと 2 極分化するのではないか。今の学生、10 年までやれば七大戦・総体に勝てるのに、7 で止めてしまっている。10 の練習をすれば勝てるなどを教えて勝たせてやりたい。今年で創部 70 周年。ここまで繋げて来られたのは素晴らしいこと。卒業生が誇りを持てるような空手道部にしてほしいという思いである。

